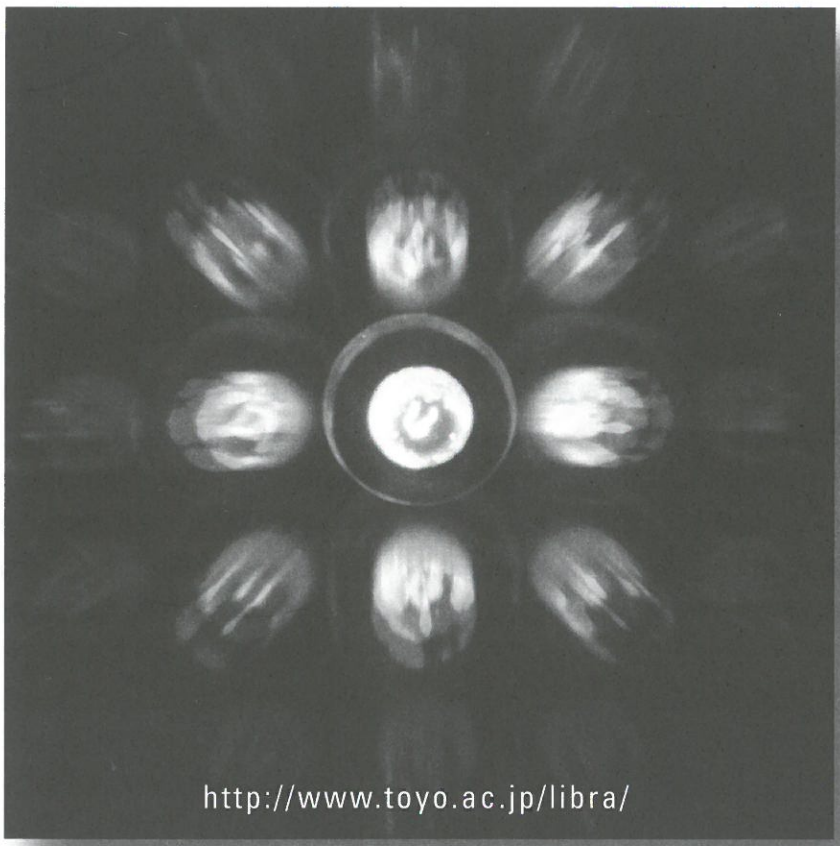
ISSN 0289-9302

TOYO UNIVERSITY LIBRARY INFORMATION BULLETIN

KOΣMOΣ

特集　図書館パソコン事情

私のインターネット活用法/ ToyoNetと図書館 / 電子図書館 / 図書館でインターネット



SUMMER
1998
NO.122

私のインターネット活用法

ここ数年でインターネットは、身近なものになってきました。
サーチエンジンなどを使うと、美術館の催しもの、コンサートの予定、7桁の新郵便番号、天気情報など、欲しい情報が瞬時に入手できます。
このように浸透してきたインターネットが、研究面ではどのように活用されているのでしょうか。
自然科学、経営学の各分野で活躍されている教授のインターネット利用法をご紹介します。

東南アジアの経済情報

米田 公丸

インターネットの普及により、時間や空間の制約を感じないで世界の経済、社会に関する論文や統計データ等の資料情報を瞬時に容易に入手出来ることは、社会科学の研究に携わるものにとって実に有難い。

主たる研究対象地域である東南アジア、なかでもインドネシアの主なサイトは使用言語は主としてインドネシア語であるが、http://www.kompas.com（中立的な日刊新聞コンパス）、http://www.tempo.co.id（発禁になった週刊誌"Tempo"が1996年3月より"Tempo Interakitif"と改名しインターネット上で読め、検閲の厳しいスハルト体制下で率直で辛辣なインタビュー記事を掲載）、http://www.bps.go.id（中央統計局の月別経済統計、主題別統計、出版物リスト）、http://www.bkpm.go.id（投資調整庁の投資関連情報）、http://www.hankam.go.id（国防・治安・国軍の活動を時系列的に知ることが出来る）、http://wwww.kadin.net.id（インドネシア商工会議所）、http://www.jsx.co.id（インドネシア証券取引所）等があり毎日のように利用している。

オーストラリア国立大学のホーム・ページhttp://coombs.anu.edu.au/からアジア情報を主題別、地域別に大量に入手できる。今回のアジアの通貨危機に関する文献資料に関する具体的な情報は、http://coombs.anu.edu.au/asianstudies/asiacrisis.html（Faculty of Asian StudiesのThe Asia Crisis: somelinks）のAsia Crisis Pageに、What Caused Asia's Economic and Currency Crisis and Its Global Contagion by Nouriel Roubiniがあり、それを印刷するとA４版46頁に亘る詳細なbibliographyである。勿論、Asiaweek、Far Eastern Economic Review等の論文も掲載されている。

それぞれの論文にアクセスするためには、例えばFinancialTimes誌の論文であればID、Passwordの入力が要求されるが登録は無料で簡単である。時宜に適ったアジア諸国の破産法の概要が紹介されたり、IMF関連の資料が豊富に収録され非常に貴重な情報が得られる。

東洋大学のホームページにアクセスすればグローバルな人文科学・社会科学・自然科学等の学術情報が即座に得られる日の近いことを期待したい。

（よねだ・きみまる　経営学部教授）

神経科学の研究とinternet

山岡 景行
dros@hakusrv.toyo.ac.jp

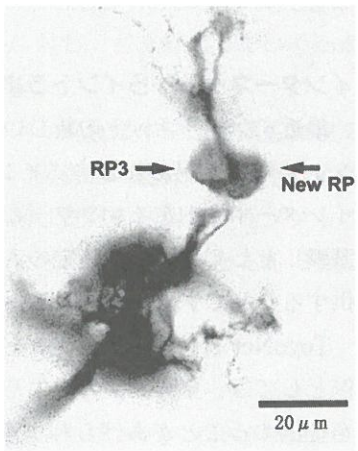
私の場合、internetを文献探査、協同研究の効率化、情報交換に使っている。文系の図書館は専門雑誌数が少なく最新論文を知る手段が限られていたが、internetが可成り解決してくれた。

URL(unified resourse location)により論文本体、抄録、目次の何れが公開されるかは異なるが手元のパソコンで読める。幾つかは目次が自動配送される。今や文献を読むのに忙しい毎日である。データや論文草稿をftp(file transfer protocol)で送受すると協同研究が効率的になる。だが、対応に迫られ、長時間パソコンに縛られるので手放しでは喜べない。Net groupsは地球規模の情報交換に有効である。

Net利用の具体例を概略、以下に紹介する。図は、漆黒を背景として鮮紅色に輝くカラー画像でなくて残念だが、2個の"RP"と呼ばれる運動ニューロンを示す。RPの意味が知られないまま有名になった。神経細胞の回路形成における相手の識別、という先端的テーマの研究材料として世界中で用いられている。ショウジョウバエの幼虫では「2対のRPが2対の腹側体壁筋を共通に支配している」とされてきた。1対は疑いなくRP3だが、もう1対が特定されていなかった。私と協同研究者は、これ等を材料にニューロンの伝達物質放出機構を電気生理学的に追究してきたが、各筋を支配するニューロン数が問題であった。我々のデータ解釈が正反対になりうるからだ。悩んだ末に自らニューロンを組織形態学的に追究する決心をした。1年半の試行錯誤を経て鮮紅色に輝く画像が蛍光顕微鏡下に浮かび上がった日、時差も忘れて国際電話をかけた興奮は忘れられない。得られた新知見の論文執筆に当たり、改めて関係文献を探査してRPファミリーの原著論文まで辿り着いた。形態的特徴等は再確認できたが、名前の由来はついに分からなかった。世界規模のBionetに「RPは何の略？」と問いかけてみた。返事の大部分は「分かったら教えてくれ！」だったが、命名者達の情報も若干寄せられた。Mailの交信から、その画像を始めて見た人が私同様の興奮を覚えた事情を知り得た。詳細を紹介する余裕はないが、"RP"がraw prawnの略で「馬鹿にするな！」を意味するAustralian slangに因んでいることと、ニューロンのいかなる特徴をも表してはいないことが分かった。知り得た情報と命名に関する私見をnet に掲載したところ、「合理的な命名とは」という論議が賑やかに展開された。

蛇足ながら、「無意味な命名」は迷惑至極。近頃、学科目名や学科名等が伝統的な名称と決別する傾向があるが、合理的な命名でありたいものだ。また、略語は「無意味な記号」に過ぎないので、語順を間違えないためにも語源を知って使うべきである。

(やまおか・かげゆき 文学部教養課程自然科学分野教授)



▶ キイロショウジョウバエ幼虫のRPニューロン細胞体

ToyoNetと図書館

岡本 勝吾
okamoto@hakusrv.toyo.ac.jp

ToyoNetってなに？

1998年４月から東洋大学では「ToyoNet」というインターネット接続サービスを開始しました。一般的には、このようなサービスをプロバイダーと言います。ToyoNetは、東洋大学がプロバイダーになるのではなく、Biglobe（ＮＥＣのプロバイダー）のアウトソーシング（外注化）・サービスを利用しているのです。

アウトソーシングの有用性について

インターネットは、世界中に情報発信することができる新しいメディアであることはよく知られています。大学はたくさんの情報を生産しているため、情報発信するメディアとしてインターネット環境を整備することが必要になります。しかしプロバイダーになるには、準備の時間と莫大な費用が必要になります。東洋大学では、プロバイダーをアウトソーシングすることによって、準備の時間を短縮し膨大な費用を抑さえることができました。そして大学本来の使命である研究や教育に専念できることになったのです。

インターネットからイントラネットへ

最近インターネットの新しい活用方法としてイントラネットがあります。イントラネットとは、インターネットをインフラ（この場合、情報通信基盤）として活用し、特定の人に有用な情報を提供することです。

ToyoNetでイントラネットを活用した場合の事例としては、東洋大学の学生だけに休講情報などを提供することがあげられます。またToyoNet上にゼミの会議室を開設して、授業前にレジメを公開します。この会議室でゼミの出席者の全員が事前に発表内容を知ることできます。そのため出席者は疑問・質問を用意することができるようになります。つまりゼミの時間が単なる発表の場になるだけでなく濃密な議論の場に変えることができます。

図書館のイントラネット活用法としては、図書の貸出予約業務などがあげられます。たとえば、自宅からインターネットを通して川越・白山・朝霞・板倉校舎の各図書館にある図書の検索ができ、そのステイタス（貸出状況）などの情報が入手できるようになります。そして必要な図書の貸出予約を、学生は自宅に居ながらできるようになります。ToyoNetにこのような情報が充実されると、一般のプロバイダーでは得られない多くのサービスを、学生は受けることができます。

ToyoNetで発行している「ＩＤとパスワード」が東洋大学の学生である認証になります。「ＩＤとパスワード」で一般のインターネットユーザーと区別し、東洋大学関係者だけの専用情報の提供が可能になります。

インターネットと電子図書館

将来、図書のデジタル化が進み、インターネットを通して図書の貸出も可能になります。このような電子図書館が構築できるとまったく新しい研究が可能になります。たとえば、現在一部の学者の間で行われているコンピュータによる「源氏物語の研究」のように、多くの研究分野でコンピュータによる研究が可能になるのです。電子図書館とインターネットの連携は、これから重要な研究になるでしょう。

このようにToyoNetを積極的に活用することにより、新しいサービスが期待できるようになります。このことは図書館のオープン化への起爆剤になるでしょう。

（おかもと・しょうごToyoNet講習会講師・
短期大学観光学科非常勤講師）

電子図書館

宮本 英行

電子図書館には①館内の電子機器やデータベースの整備、②館内外のネットワークの強化、この２点が欠かせません……と言っても、まず「電子図書館」を何から、どう説明すれば良いのか迷います。そこで本学図書館が電子図書館化したらどうなるか、という話をします。なお、これから挙げるのは「現在、これらを実施している図書館がある」ということで、必ずしも「将来こうなる」というものではないことをお断りしておきます。

学外からもOPAC（資料検索）が

「利用者が多くてOPACが使えない」という苦情を聞くことがあります。OPAC専用端末を何台か増やすだけでなく、専用端末を使用しなくてもOPACが利用できるようになることが求められます。現在、館内で利用者が持参したパソコンが使用できるようになりつつあります。これがOPACに接続できて、更に館外や学外からも可能になれば、OPACのためだけに図書館に来る必要はなくなります。

OPACを便利に

OPACで検索して借りたいものが「貸出中」と表示されると、カウンターの閲覧係に予約を申し込む手間がかかりますが、OPACから予約が申し込めるとなったら、それも省けます。また予約した資料が返却されると自動的に電子メール等で通知する等の機能があれば便利でしょう。

目次検索・全文検索

紀要は他大学からも複写・閲覧の希望が多い資料です。つまり誰かがその中のある論文のために借りたら（特に合冊製本されている場合）違う論文を利用する人の邪魔をした、ということになってしまいます。これを解決するには紀要に載っている論文全文と目次をデータ化し、お互いをリンクさせることです。目次をキーワード検索してから論文名を指定し全文を表示、あるいは、ある号の論文全部の全文に対してもキーワードを含んでいるか検索、という使い方もできます。

専用端末以外でもCD-ROMが

CD-ROMの利用にも、OPAC同様の不便があるようです。そこでCD-ROMチェンジャーにCD-ROMを搭載、館内で利用者持参の端末から接続できるようになれば、使いやすさが大きく広がります。

他にも「貴重書を画像データにする」「文献複写の申し込みをインターネットで」「雑誌の特集名を検索」等、実現したい機能は色々あります。

考慮すべき問題の代表的なものは著作権です。館外・学外からの利用制限や著作権料の負担等、利用方法の制限等に対し、どう対応していくかが重要になっていきます。

電子図書館化という流れは本学図書館も無視できません。1995年、図書館の建物というハードは変わりました。今後は資料の利用というソフトの面を検討していかなければならないところにきているのです。

（みやもと・ひでゆき　図書事務課主任）

図書館でインターネット ウインウイン君が待っている!?

市橋　篤
atushii@hakusrv.toyo.ac.jp

白山図書館、B1階のワープロコーナーに潜水艦のめがねのような、異様な突起物を目にした人もあると思います。愛称はウインウイン君です。ちなみに名付け親は私です。“ウインウイン君”とはインターネット接続のためのアンテナなのです。図書館では今年4月から、インターネットが利用できるようになりました。それではどうやってインターネットに接続するか、パソコン歴僅か2ヶ月足らずの超ビギナーの私が、図書館でインターネットをやってみることにしました。

図書館でインターネットをするためには次のものが必要です

●ノートパソコン

時々、利用者の方に、『図書館でインターネットが使えるって聞いたのですけど、どうしたら使えるのですか？』という質問をされます。しかし残念ながら現時点ではノートパソコンをお持ちでないと図書館でインターネットを利用して頂く事はできません。

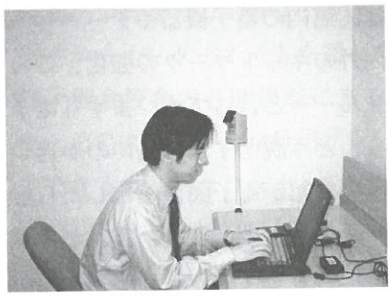
●(ネットワーク) ケーブル

これは使用場所についているモジュラージャックと自分のパソコンをつなぐための物で、学生証と引き換えに図書館メインカウンターで貸出しもしております。

●(ネットワーク)カード

自宅で使う場合に必要なパソコンと電話回線をつなぐモデムの代わりに、図書館では学内LANを利用する為のLANカードが必要となります。

以上の物が揃っていないと、図書館でインターネットを利用して頂くことはできませんので、あらかじめご了承ください。



という訳で、私は職場からノートパソコン一式を拝借し、“ウインウイン君”のもとに走りました。

早速ケーブルでパソコンとモジュラージャックをつないで…。おっと忘れていた。机の端についている“ウインウイン君”を合わせないと…。(これを使えば、床下での面倒な配線がいらなくなるというスグレモノ。正式名称は”無線LAN装置”と言うらしいです。) ボタンを押すと、彼はその名の如く？ウインウインと音を立てて小刻みに動き、ランプが青色に変わって止まりました。

さらにこの場所で使うために、カウンターから貰ってきたマニュアルを見ながら設定を合わせます。まだパソコン慣れしていない私にとって、これが結構面倒臭く手間が掛かってしまいましたが、数分後、何とか必要事項の入力を終え、ブラウザ(ホームページを見るためのソフト) を開き、アドレス欄に『http://www.toyo.ac.jp/libra/』と打ち込むと…。ようやく我らが東洋大学附属図書館のホームページがディスプレイ上に現れました。

やったぁー！

今なら知名度が低いせいもあって“ウインウイン君”の周りはあいています。図書館からインターネットで広い世界に飛び出してみませんか？

(いちはし・あつし　図書事務課)

新館長から

無用の用

附属図書館長 竹内 郁郎

本年４月から附属図書館長に就任しました社会学部の竹内です。まだ見習い期間中ですが、今まで利用者としてしか接することのなかった図書館の業務の、多岐にわたる拡がりと奥の深さに、とまどいを覚えているところです。

現在、そしてこれからの図書館は、本や雑誌などの印刷物ばかりでなく、テープやディスクなどのＡＶコピーから、コンピューターに貯蔵された電磁的情報まで、多様な知的生産物を収蔵したり利用に供したりすることが必要になるでしょう。“閲覧”という状態もずい分変ってくると思われます。本学図書館もこうした事態の変化に対応していろいろ改革をしていかなければなりませんし、現にいくつかの改革への試みが行われています。

しかし、図書館の本質的な使命は、人類が長年にわたって築いてきた知的営為の成果を大切に保存し、これを現在の人びとに広く供することにあるものと思います。二千年前の哲学者の英知が、数百年以前の文学者のイマジネーションが、そして刻明に記録された私たちの祖先の日々の営みが、いまの私たちの生きる指針として、励ましとして活かされるからこそ、そうした英知や想像力や生活の記録が集められている図書館を、私たちは愛し利用するのではないでしょうか。

具体的な問題解決に直接役立つ情報を集積することも、もちろん必要でしょう。しかし図書館がそうした情報センターをあまりに強く志向しすぎることは、本末顛倒のそしりを免れません。「無用の用」をあえて受け容れる、懐の深い大学図書館でありたいと願っています。

（たけうち・いくお）

幸福を売る商売

朝霞分館長 疋田 聰

幸福を売る男というシャンソンがある。沢山の人が買ってくれるなら、世の中幸福な人であふれる。しかもお代はいらない、というのだから本当に幸福な商売をする幸福（しあわせ）な人だ。どうやって食っているんだろか、などと現実的なコトをいわなければの話ではあるが。

広告は、幸福を直接的には売らないけれども売るお手伝いをする。幸福を感じてもらう、あるいは伝えることに心を砕く。幸福が目にみえ、手でさわることができるならば、それをそのままお客さんのところへ届ければいい。

しかし現実はそううまい具合にはできていない。幸福は“商品”という形になって市場に出回っている。メーカーの人たちは、商品に幸福をいっぱいつめ込み、愛称までつける。ブランドである。お客さんには、思いのいっぱいつまった商品を是非買ってほしい。そして幸福を共有してほしい。この思いを広告に託す。だから広告づくりには知恵を絞り工夫をこらす。現物をそのままお客さんのところへもっては行けないのが、ちょっと残念なところだ。

本も同じようなところがある。著者の息づかいや表情は、対面しているわけではないからわからない。けれど大よそのところは伝わる。いわば、著者からの広告である。

広告をみて気に入ったら現物に会いに行ってみる。そういう人が増えるきっかけづくりのお手伝いができるなら、私はとても幸福だ。

（ひきた・さとし）

「百人一首並びに類書目録」について

松澤　実

一昨年度の『新編哲学堂文庫目録』に引き続き、昨年度は『東洋大学図書館所蔵百人一首並びに類書目録』（編集＝特定コレクション目録編集委員会、発行＝東洋大学附属図書館）を刊行することができました。これは図書館で所蔵する942点の百人一首およびその関連資料（平成10年３月31日現在）について書名、著者名、刊年などの書誌事項を記述した所蔵一覧、所蔵資料のうち特色のあるものについて詳しく解説を付した解題目録、そして神作光一文学部教授（編集委員会委員長）の手による百人一首についての概説などから構成されています。

百人一首は「かるた」などにより、私たちごく普通の日本人にも馴染みの深いものですが、その成立からはおよそ760年を数え、さまざまな形を取りながら人々の手から手へと受け継がれており、まさに文化遺産と呼ぶのに相応しいものです。

今回刊行したこの目録により東洋大学が所蔵する百人一首およびその関連資料について一覧することが可能となったばかりではなく、百人一首がいかに豊かな世界を包含しているかを概観することができるでしょう。

本学図書館では蔵書の個性化をはかるために、かねてより特定のテーマに基づき資料の収集をおこなってきました。図書館には学外に対しても充分に誇りうるコレクションがあります。図書館におけるコレクションは、その資料が活用されることにより、一層価値を高めることになります。百人一首コレクションについても同様です。学内では百人一首をテーマとした研究がおこなわれておりますが、百人一首はその性格から、一部の研究者、好事家だけに占有されるものではなく、広く人々に親しまれうるものです。目録の刊行により、図書館所蔵の百人一首がより身近になり、活用されることを念じてやみません。

（まつざわ・みのる　図書事務課主任）

廃棄雑誌展示のお知らせ（白山）

保存期限の過ぎた雑誌を廃棄いたします。ご希望の方にさし上げますので、下記によりご自由にお持ち下さい。

期間：平成10年7月13日（月）～7月18日（土）

時間：開館時間内

場所：図書館1Fブラウジングコーナー

※廃棄雑誌の一覧は、インフォメーションカウンター・メインカウンターにあります。

BOOK TRACK

今回の号から、編集委員が交替になりました。
図書館から何が発信できるか、若い委員と話し合いながら編集していきたいと思います。
「BOOK TRACK」という編集後記欄をもうけました。
ブックトラックとは本用の台車のことです。地味ですが図書館では大切な道具の一つです。
図書館と利用者の、情報の運び屋さんの意味を込めて名付けてみました。

（久）

東洋大学図書館ニュース　コスモス　1998 夏 No.122　1998年7月1日発行
編　集：コスモス編集委員（岡本久美子・馬場能子・布施賢治・大塚香織・市橋篤・松澤実）
発行人：竹内　郁郎　　発行所：東洋大学附属図書館　東京都文京区白山5-28-20　Tel. 03（3945）7326